

2021年卒 大学院生（修士・博士）就職活動のオンライン化についての調査

- ◆調査期間：2020年4月24日(金)～5月6日(水)
- ◆調査対象：2021年度(2021年4月～2022年3月)中に就業開始を希望する大学院生（修士・博士）
- ◆調査方法：Web入力フォーム
- ◆調査目的：新型コロナウイルス感染拡大によって急速に進む就職活動のオンライン化が、大学院生（修士・博士）の就職活動に与える影響を把握するため
- ◆有効回答：216名（内訳：修士144名、博士72名）
- ◆属性データ

【居住地】	修士	割合	博士	割合	総計	割合
北海道	0	0.00%	5	6.94%	5	2.31%
東北	16	11.11%	5	6.94%	21	9.72%
関東	68	47.22%	26	36.11%	94	43.52%
中部	14	9.72%	14	19.44%	28	12.96%
近畿	18	12.50%	14	19.44%	32	14.81%
中国・四国	18	12.50%	1	1.39%	19	8.80%
九州	10	6.94%	7	9.72%	17	7.87%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%

【研究分野】	修士	割合	博士	割合	総計	割合
物理系	16	11.11%	11	15.28%	27	12.50%
電気・電子系	4	2.78%	1	1.39%	5	2.31%
情報・通信系	21	14.58%	5	6.94%	26	12.04%
環境・資源系	6	4.17%	1	1.39%	7	3.24%
機械系	11	7.64%	1	1.39%	12	5.56%
数学系	6	4.17%	1	1.39%	7	3.24%
化学系	18	12.50%	14	19.44%	32	14.81%
建築・土木系	1	0.69%	0	0.00%	1	0.46%
材料・物質系	6	4.17%	6	8.33%	12	5.56%
生物・農学系	25	17.36%	13	18.06%	38	17.59%
医学・薬学系	4	2.78%	13	18.06%	17	7.87%
その他の理系分野	5	3.47%	2	2.78%	7	3.24%
人文科学系	5	3.47%	0	0.00%	5	2.31%
社会学・心理学系	5	3.47%	3	4.17%	8	3.70%
法学・政治学系	4	2.78%	0	0.00%	4	1.85%
経済学・経営学・商学系	2	1.39%	1	1.39%	3	1.39%
教育・教育養成学系	2	1.39%	0	0.00%	2	0.93%
国際関係学系	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
芸術学系	2	1.39%	0	0.00%	2	0.93%
その他の文系分野	1	0.69%	0	0.00%	1	0.46%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社アカリク PR担当
TEL : 03-5464-2125 MAIL : pr@acanic.co.jp

◆質問項目

- 1.就職活動の状況をおしえてください。
- 2.新型コロナウイルス感染拡大の影響で、オンライン化をはじめとした例年とは違った就職活動となっています。現在、就職活動に対して不安はありますか。
- 3社員・リクレーター面談や実際の面接などで「オンラインでの採用をすすめている企業」に対するイメージを3つまでお選びください。
- 4.オンラインでの採用を行っているかどうか志望度に影響することはありますか。
- 5.就職活動で経験したオンライン面談や面接についての満足度をおしえてください。
- 6.オンライン面談や面接についてメリット・デメリットなど感じていること、経験したことを自由におしえてください（任意の回答項目）。
- 7.オンラインでの面接・面談のみで一度も対面を行わずに内定まで完結したことはありますか。
- 8.選考を受ける企業選びで現在、重視していることを3つまでおえらびください。
- 9.新型コロナウイルス感染症が発生する前と後で、就職活動における選社軸の変化がありましたか。
- 10.9で「かなり変化した」「少し変化した」と回答した方にお聞きします。どのように変化しましたか？Before / Afterでおしえてください（任意の回答項目）。

◆調査結果概要

全ての質問項目について、在籍状況（修士・博士）及び居住地（関東・関東以外）での結果を比較した。

■既に就職活動を終えているのは全体の2割程度

在籍状況別でみたとき、「既に就職活動を終えている」と答えた割合は修士と博士で同程度であった。一方で「これから就職活動を開始する」と答えた修士がほとんどいないのに対し、博士で1割近くであった。居住地による違いはみられなかった。

■就職活動のオンライン化に不安感をもつと答えた割合は、博士より修士、関東以外在住より関東在住の場合のほうが多い

例年と異なる就職活動となっていることに「不安」「非常に不安」と答えた割合は、在籍状況別でみたとき修士で77%、博士で65%となった。これを居住地別でみたとき関東で80%、関東以外で65%であった。

■オンラインでの採用をすすめている企業に対するイメージは「リモートワークなどの柔軟な働き方に期待できる」

オンライン採用を行っている企業に対して「柔軟な働き方ができる」、「イノベティブ（革新的）である」、「優秀な人材がいる」といったイメージを持つ場合が多い一方、「特別なイメージはない」という答えも11%あった。在籍状況や居住地による回答の大きな違いはみられなかった。

■オンライン採用を行っているかどうか志望度に「全く影響しない」と答えたのはわずか8%

修士より博士、また関東より関東以外でオンライン採用を行っている企業を積極的に志望すると答えた割合が多かった。

■実際に経験したオンライン面談・面接に対して62%が「非常に満足」「満足」

居住地別でみたとき「非常に満足」「満足」と答えたのは関東で52%、関東以外で70%であった。さらに「オンラインで面談や面接を行ったことがない」のは関東で17%、関東以外で12%であることから、関東以外ではより満足度が高い傾向がみられた。

■現時点でオンラインのみで内定を獲得したのは16%

関東で15%、関東以外で17%がオンラインのみで内定を獲得した経験があり居住地による差は大きくないことがわかった。在籍状況別では修士の19%、博士の11%が既にオンラインのみで内定を獲得している。

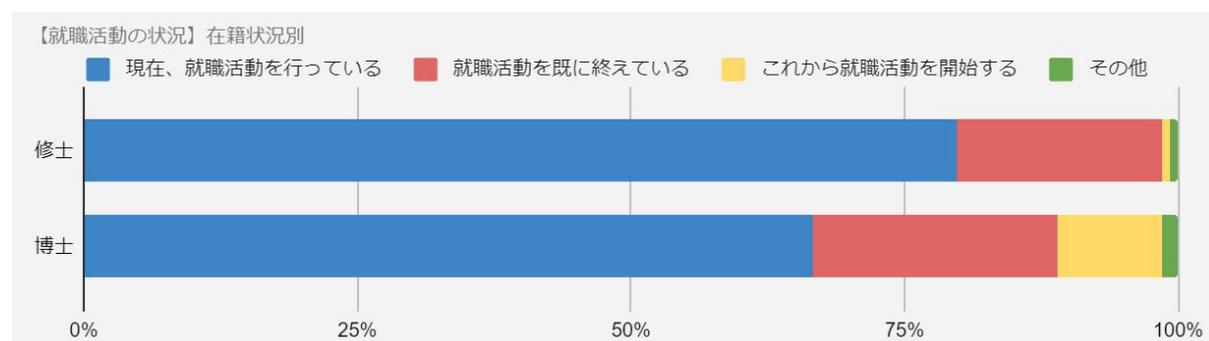
■選考を受ける企業選びで重視していることは「業務内容」「成長できる環境」「研究や専攻が活かせること」、7割は新型コロナウイルス流行前後で選社軸は変わらず

修士と博士と比較したとき「研究内容が活かせるか」といった点も含めて全項目で大きな傾向の違いはみられない。

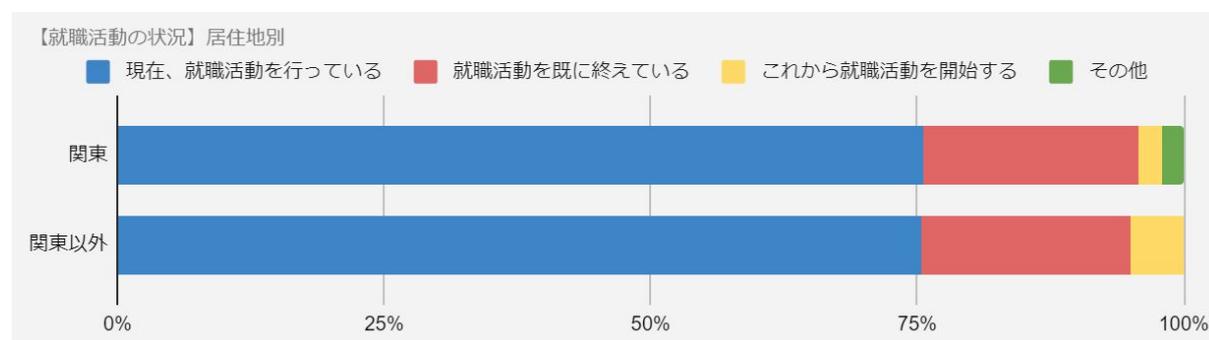
◆調査結果詳細

1.就職活動の状況をおしえてください。

【就職活動の状況】在籍状況別	修士	割合	博士	割合	総計	割合
現在、就職活動を行っている	115	79.86%	48	66.67%	163	75.46%
就職活動を既に終えている	27	18.75%	16	22.22%	43	19.91%
これから就職活動を開始する	1	0.69%	7	9.72%	8	3.70%
その他	1	0.69%	1	1.39%	2	0.93%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%

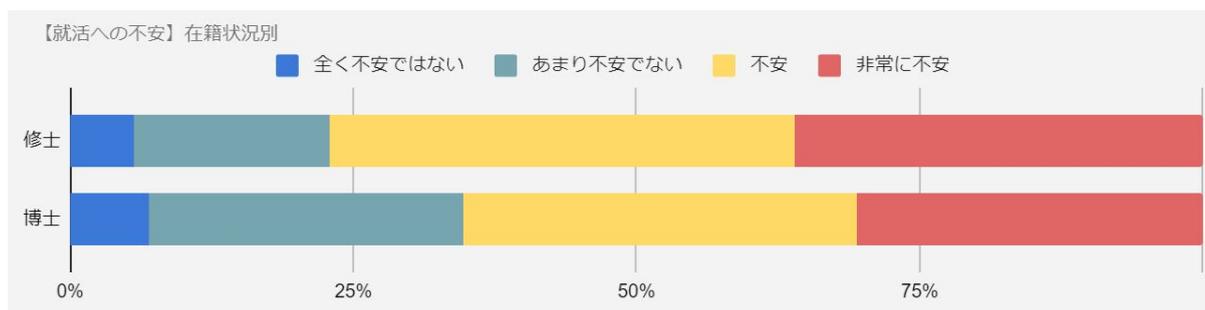


【就職活動の状況】居住地別	関東	割合	関東以外	割合	総計	割合
現在、就職活動を行っている	71	75.53%	92	75.41%	163	75.46%
就職活動を既に終えている	19	20.21%	24	19.67%	43	19.91%
これから就職活動を開始する	2	2.13%	6	4.92%	8	3.70%
その他	2	2.13%	0	0.00%	2	0.93%
総計	94	100.00%	122	100.00%	216	100.00%

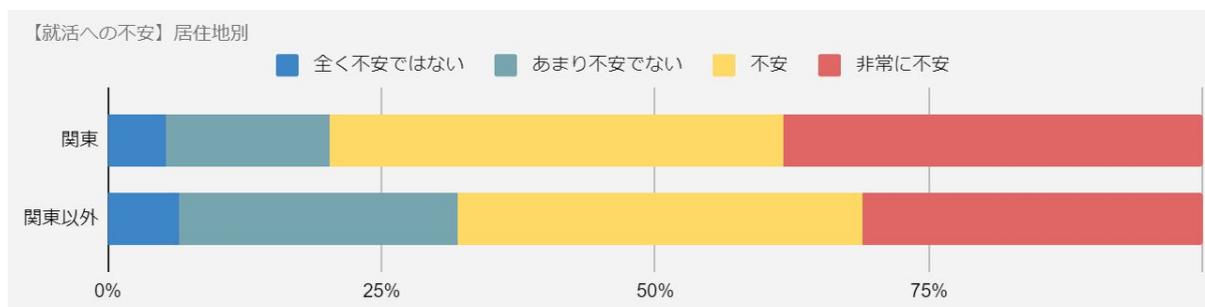


2.新型コロナウイルス感染拡大の影響で、オンライン化をはじめとした例年とは違った就職活動となっています。現在、就職活動に対して不安はありますか。

【就活への不安】在籍状況別	修士	割合	博士	割合	総計	割合
全く不安ではない	8	5.56%	5	6.94%	13	6.02%
あまり不安でない	25	17.36%	20	27.78%	45	20.83%
不安	59	40.97%	25	34.72%	84	38.89%
非常に不安	52	36.11%	22	30.56%	74	34.26%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%

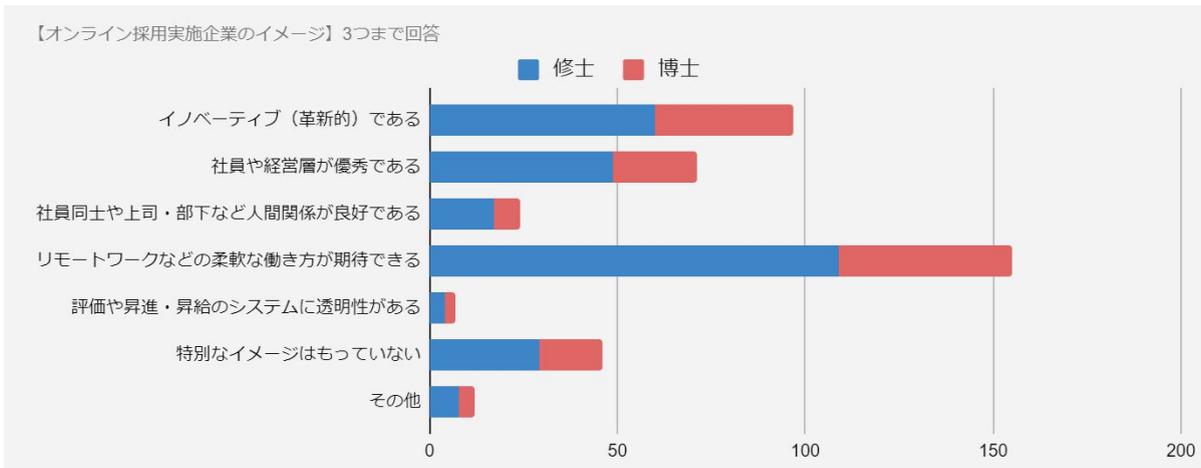


【就活への不安】居住地別	関東	割合	関東以外	割合	総計	割合
全く不安ではない	5	5.32%	8	6.56%	13	6.02%
あまり不安でない	14	14.89%	31	25.41%	45	20.83%
不安	39	41.49%	45	36.89%	84	38.89%
非常に不安	36	38.30%	38	31.15%	74	34.26%
総計	94	100.00%	122	100.00%	216	100.00%



3.社員・リクレーター面談や実際の面接などで「オンラインでの採用をすすめている企業」に対するイメージを3つまでお選びください。

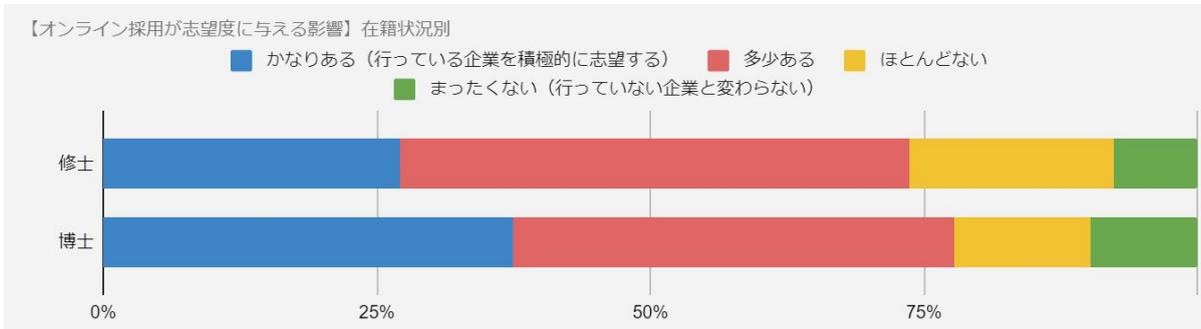
【オンライン採用実施企業のイメージ】3つまで回答	修士	割合	博士	割合	総計	割合
イノベティブ（革新的）である	60	21.74%	37	27.21%	97	23.54%
社員や経営層が優秀である	49	17.75%	22	16.18%	71	17.23%
社員同士や上司・部下など人間関係が良好である	17	6.16%	7	5.15%	24	5.83%
リモートワークなどの柔軟な働き方が期待できる	109	39.49%	46	33.82%	155	37.62%
評価や昇進・昇給のシステムに透明性がある	4	1.45%	3	2.21%	7	1.70%
特別なイメージはもっていない	29	10.51%	17	12.50%	46	11.17%
その他	8	2.90%	4	2.94%	12	2.91%
総計	276	100.00%	136	100.00%	412	100.00%



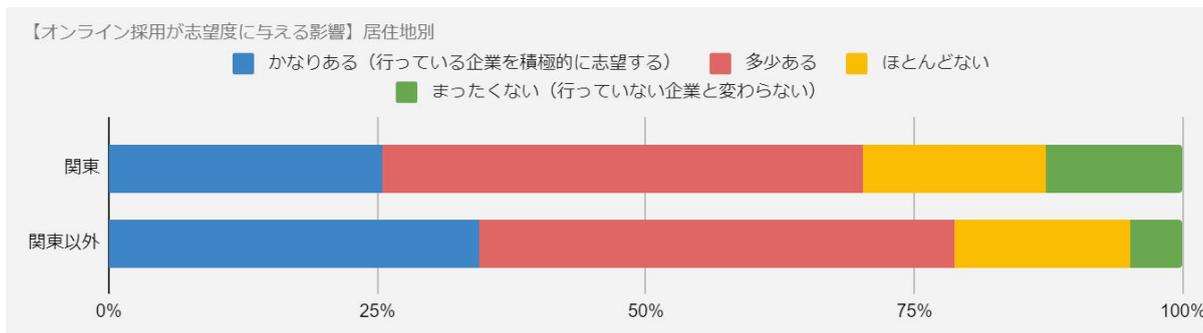
※居住地別データは傾向が変わらないため省略

4.オンラインでの採用を行っているかどうか志望度に影響することはありますか。

	修士	割合	博士	割合	総計	割合
かなりある（行っている企業を積極的に志望する）	39	27.08%	27	37.50%	66	30.56%
多少ある	67	46.53%	29	40.28%	96	44.44%
ほとんどない	27	18.75%	9	12.50%	36	16.67%
まったくない（行っていない企業と変わらない）	11	7.64%	7	9.72%	18	8.33%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%

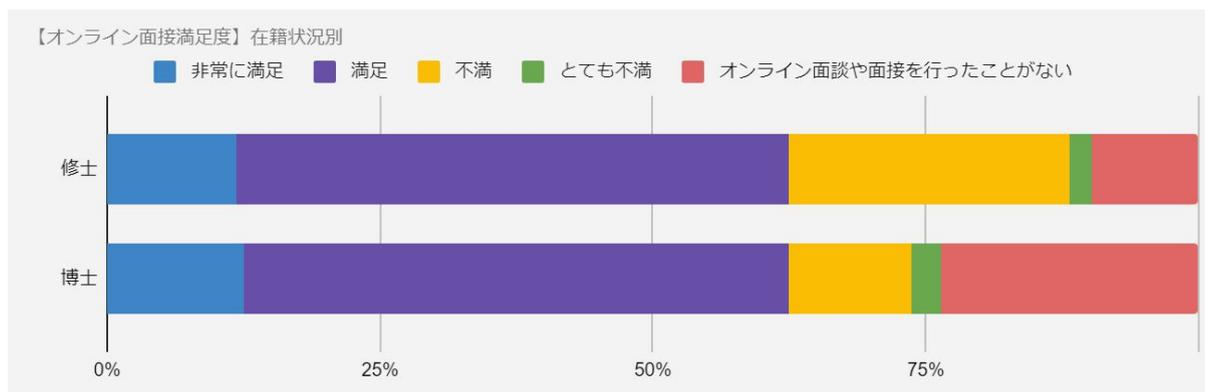


	関東	割合	関東以外	割合	総計	割合
かなりある（行っている企業を積極的に志望する）	24	25.53%	42	34.43%	66	30.56%
多少ある	42	44.68%	54	44.26%	96	44.44%
ほとんどない	16	17.02%	20	16.39%	36	16.67%
まったくない（行っていない企業と変わらない）	12	12.77%	6	4.92%	18	8.33%
総計	94	100.00%	122	100.00%	216	100.00%

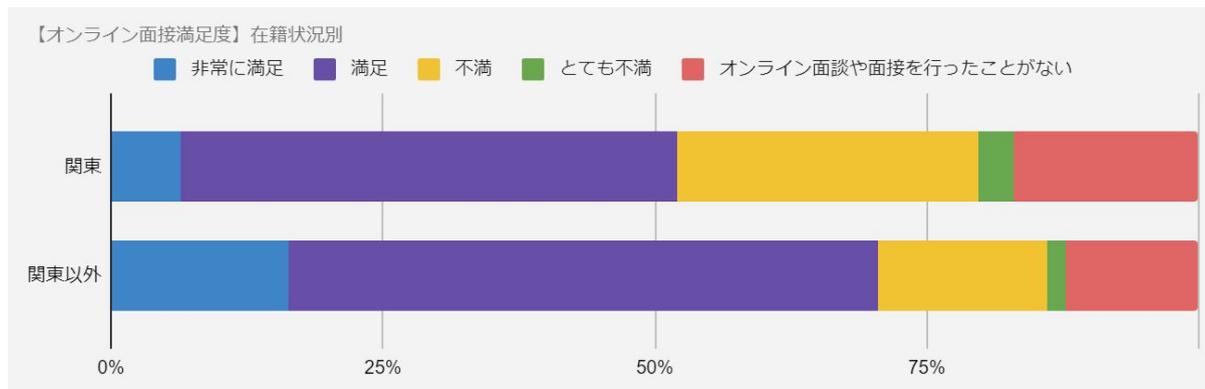


5.就職活動で経験したオンライン面談や面接についての満足度をおしえてください。

【オンライン面接満足度】 在籍状況別	修士	割合	博士	割合	総計	割合
非常に満足	17	11.81%	9	12.50%	26	12.04%
満足	73	50.69%	36	50.00%	109	50.46%
不満	37	25.69%	8	11.11%	45	20.83%
とても不満	3	2.08%	2	2.78%	5	2.31%
オンライン面談や面接を行ったことがない	14	9.72%	17	23.61%	31	14.35%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%



【オンライン面接満足度】 在籍状況別	関東	割合	関東以外	割合	総計	割合
非常に満足	6	6.38%	20	16.39%	26	12.04%
満足	43	45.74%	66	54.10%	109	50.46%
不満	26	27.66%	19	15.57%	45	20.83%
とても不満	3	3.19%	2	1.64%	5	2.31%
オンライン面談や面接を行ったことがない	16	17.02%	15	12.30%	31	14.35%
総計	94	100.00%	122	100.00%	216	100.00%



6.オンライン面談や面接についてメリット・デメリットなど感じていること、経験したことを自由におしえてください（任意の回答項目）。

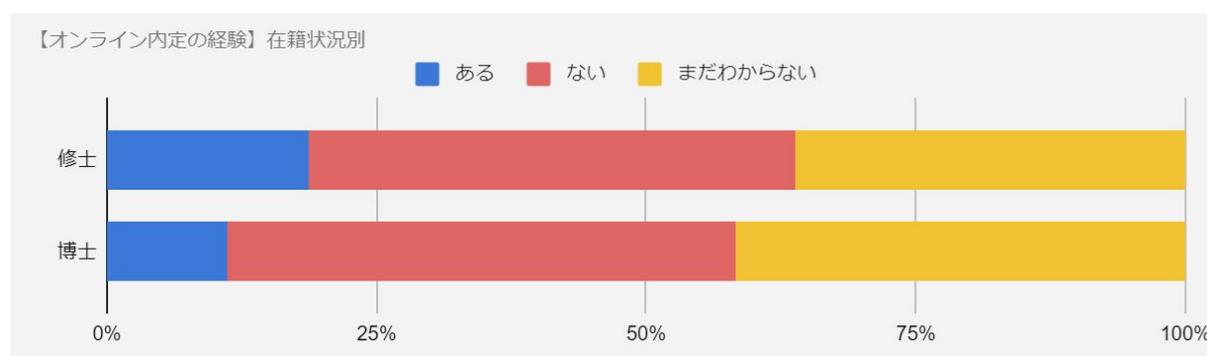
メリット
研究が忙しいが、オンラインなので研究をそこまで圧迫せず就職活動を行うことができる。
遠方に出向かなくて良いのでスケジュールがバッティングすることが少ない。
交通費や宿泊費がかからない。
リラックスして、メモや資料を見ながら面接に臨むことができる。
遠方にある企業でも気軽に応募できるのがよい、就職活動の幅や視野が広がる。
顔がよく見える。
会場に赴かなくていいので、一日に数社受けることも可能。
スケジュール管理が楽。
自宅で就活を終えることができた。
歩き回って汗をかかない、パンプスで足が痛くならない、髪型やメイクが崩れない。
相手の名前が常に画面に表示されているときは助かる。時間もPCの画面で見られるので、何分程度で、と言われるとき便利。
オンラインベースの選考の導入から社内の風土を知ることができると考えている。例年とは違う取り組み(オンライン面談の取り入れ等)をしている企業は新たな活動形態を強いられる状況での意思決定・フットワークが軽快、採用活動そのものを延期し続けているような企業は意思決定が遅かったりフットワークが重く社内の風通しが良くないような印象を受ける。
直前まで自宅で一人でリラックスして過ごせるので他の就活生や周りの環境に影響されずに済むこと。
デメリット
グループ面接だと通信が乱れる時がある。
音声乱了れたことを言い出せなかった。
雰囲気が掴めないで、面接の最中にいい雰囲気なのか悪い雰囲気なのかわからず、話の止めどころなどがわからない。
よく聞き取れない面接があった。声や反応が遅れてしまう。話が被りやすい。
マスクをしている面接官の表情がまったく分からなかった。
デバイスの不調などで通信できず遅れた場合があったので、選考に影響するのかが分からないため、不安。
気持ちの切り替えが難しい。
本社の様子を見られないのは残念。実際の会社の雰囲気や、社員さんの雰囲気を肌で感じるができない。他の応募者の様子が見れない。
突然の対応についていけない企業では就活の中断などがあり、見通しより1ヶ月ほど予定が遅れている。
通信によるタイムラグや相手の反応が見えないプレゼンテーション。また、直接会うのとオンラインでは人物面での印象に差が生じると感じる。
面接場所に困る、面接に支障の出ない背景の用意が負担になっている。
気持ちが伝わりにくい。画面に入りきらず身振り手振りが使えない。画面越しのコミュニケーションが難しい。

面接官側の通信の不良を指摘できずに通信が不自由な状態で面接を行った経験があり、通信環境に面接のしやすさが左右される点で不自由を感じた。
リアクションが薄い方と対面すると、話が伝わっていないのではないかと焦り、一方的に話してしまうこともあった。
在宅勤務になり、人事部間で連携が取れていない事があり、面接開始後に研究紹介（スライド発表形式）があることが発覚したこと。
URLを貼り間違えられて面接が延期になった。
光が少ない、顔に影ができていないなどカメラの移り具合も印象を大きく変えると思うので注意する必要があると感じました。
理系の技術面接がオンラインだと、身振り手振りが使えず、スライド中の図なども指し示しにくいのでは、と思う。
情報を随時追加されると混乱する。実際5件ほどのメールが届き、最終メールに書いていない事項を見落としオンライン面接に出席しそびれたことがあった。情報を集約してくれると嬉しい。
通信量が嵩むため通信制限がかかることがある。
カメラの位置に目を向けると画面に映る面接官の顔を見ることができない。このため、目を合わせて話すことが難しい。
自宅生なので家で面接を行う場合には家族に迷惑をかけてしまうのが申し訳なく思う部分であった。
バーチャル背景の機能がないツールだと、白い壁が家になのでオンライン面談の為に大学に行っていた。
企業側がツールを指定してくるので、様々なIDやアプリが増える。
設定ミスで相手に自分の映像が映らなかつたり声が聞こえなかつたりして数分待たせてしまったことがあり、双方慣れていない。

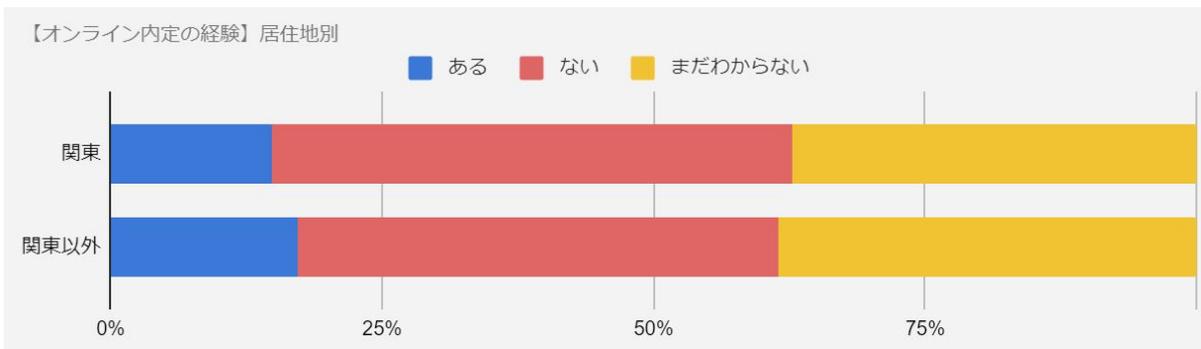
※一部抜粋

7.オンラインでの面接・面談のみで一度も対面を行わずに内定まで完結したことはありますか。

【オンライン内定の経験】在籍状況別	修士	割合	博士	割合	総計	割合
ある	27	18.75%	8	11.11%	35	16.20%
ない	65	45.14%	34	47.22%	99	45.83%
まだわからない	52	36.11%	30	41.67%	82	37.96%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%

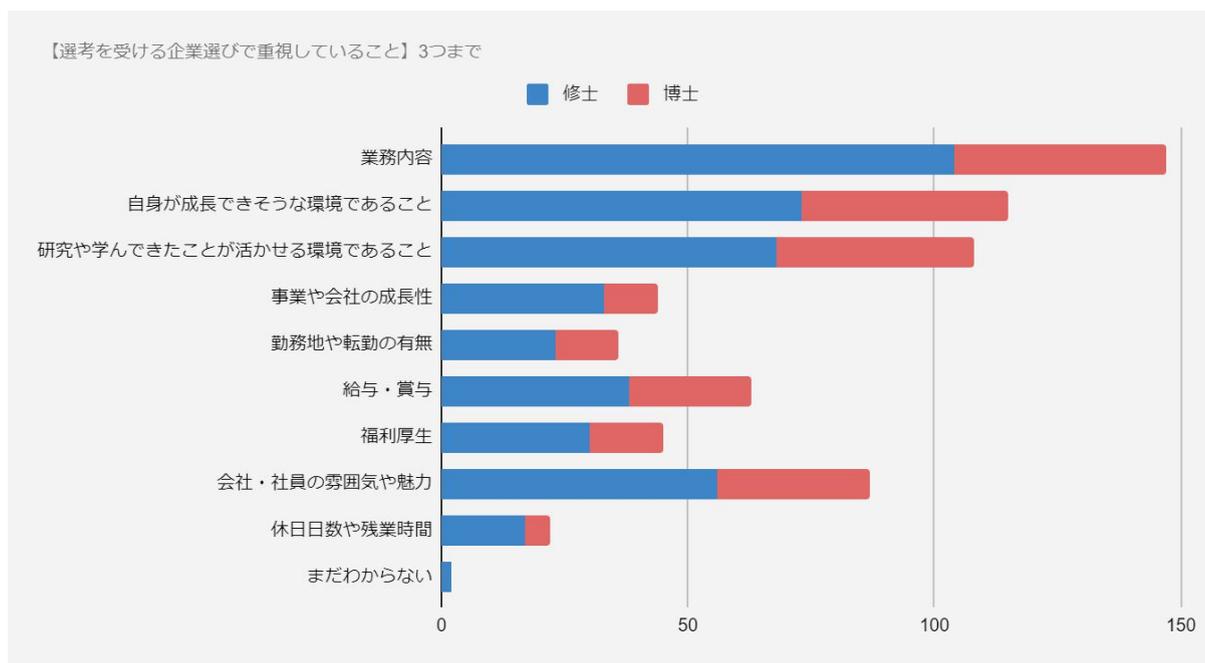


【オンライン内定の経験】居住地別	関東	割合	関東以外	割合	総計	割合
ある	14	14.89%	21	17.21%	35	16.20%
ない	45	47.87%	54	44.26%	99	45.83%
まだわからない	35	37.23%	47	38.52%	82	37.96%
総計	94	100.00%	122	100.00%	216	100.00%



8. 選考を受ける企業選びで現在、重視していることを3つまでおえらびください。

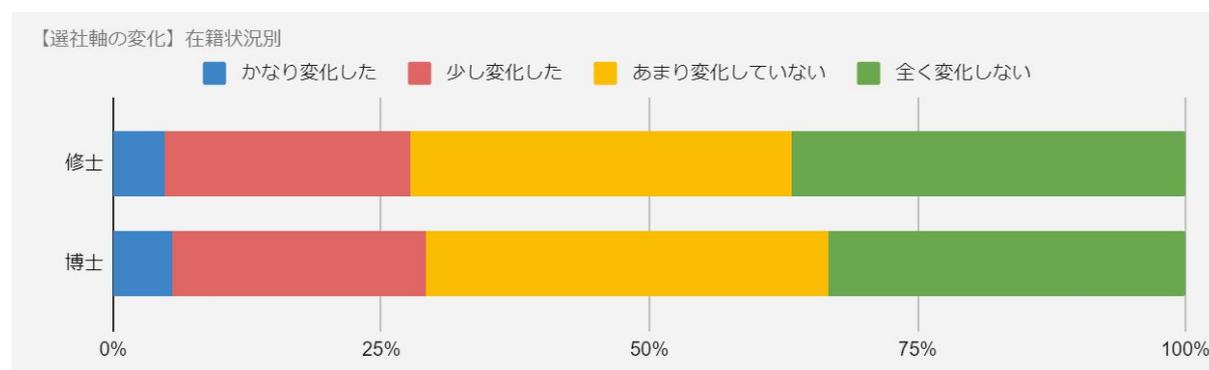
【選考を受ける企業選びで重視していること】3つまで	修士	割合	博士	割合	総計	割合
業務内容	104	23.37%	43	19.03%	147	21.91%
自身が成長できそうな環境であること	73	16.40%	42	18.58%	115	17.14%
研究や学んできたことが活かせる環境であること	68	15.28%	40	17.70%	108	16.10%
事業や会社の成長性	33	7.42%	11	4.87%	44	6.56%
勤務地や転勤の有無	23	5.17%	13	5.75%	36	5.37%
給与・賞与	38	8.54%	25	11.06%	63	9.39%
福利厚生	30	6.74%	15	6.64%	45	6.71%
会社・社員の雰囲気や魅力	56	12.58%	31	13.72%	87	12.97%
休日日数や残業時間	17	3.82%	5	2.21%	22	3.28%
まだわからない	2	0.45%	0	0.00%	2	0.30%
その他	1	0.22%	1	0.44%	2	0.30%
総計	445	100.00%	226	100.00%	671	100.00%



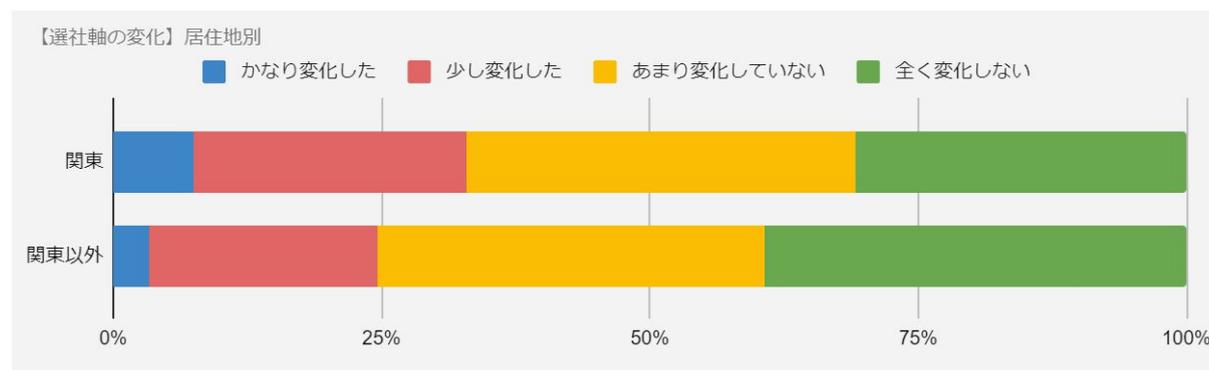
※居住地別データは傾向が変わらないため省略

9.新型コロナウイルス感染症が発生する前と後で、就職活動における選社軸の変化がありましたか。

【選社軸の変化】在籍状況別	修士	割合	博士	割合	総計	割合
かなり変化した	7	4.86%	4	5.56%	11	5.09%
少し変化した	33	22.92%	17	23.61%	50	23.15%
あまり変化していない	51	35.42%	27	37.50%	78	36.11%
全く変化しない	53	36.81%	24	33.33%	77	35.65%
総計	144	100.00%	72	100.00%	216	100.00%



【選社軸の変化】居住地別	関東	割合	関東以外	割合	総計	割合
かなり変化した	7	7.45%	4	3.28%	11	5.09%
少し変化した	24	25.53%	26	21.31%	50	23.15%
あまり変化していない	34	36.17%	44	36.07%	78	36.11%
全く変化しない	29	30.85%	48	39.34%	77	35.65%
総計	94	100.00%	122	100.00%	216	100.00%



10.9.で「かなり変化した」「少し変化した」と回答した方にお聞きします。どのように変化しましたか？
Before / Afterでおしえてください（任意の回答項目）。

Before / After
できるだけ多くの企業を受けようと思っていた / 数を絞って就活した
データサイエンティストに絶対になりたい / 選り好みせずに、幅広い業界を検討すべき
研究で学んだことを活かせる / 研究で学んだことを活かせなくてもいい。新しいこともやってみたい
若手が活躍できる社風があればどこでも良い / 外敵要因によって影響を受けにくい企業が良い
やりたいことしか考えてなかった / 働き方の変化への対応の速さも気にするようになった

出社して働くことが普通 / 働き方改革の一つとして今後も在宅勤務を取り入れる意向があるか
勤務地の優先度はそれほど高くなかった / 勤務地をより重視するようになった。いざというとき、親元と離れているのは不安だと実感した。
エントリーする企業を厳選していた / 有効求人倍率の低下を踏まえエントリー数を増やした
事業内容を重視 / 日々変わる状況にしっかりとメールや電話で対応してくれる企業や早くにweb説明会を実施し始めたところと対応が遅れているところの差がはっきりしており、対応の早い企業の方が柔軟性があり、将来性があるのではないかなど感じた。そこで志望順位がかなり入れ替わった。
ワークライフバランス重視 / 企業の安定性重視
大手、自分の趣味に近い、学んできたことが活かせる、福利厚生がいい、社風がいい / 学んできたことが活かせる
自分の夢が叶えられるような企業を受ける / 保険として、妥当な企業も受ける
海外に行くことも興味が強く、働く場所に制限がなかった / 働く場所を気にするようになった
業務内容や給料、福利厚生が自分にとって満足のいくものかどうか / 説明会や面接のオンライン化に対して、即座に対応できる会社かどうか、成長性や柔軟性等の観点から1つの評価項目になった。また、業界研究に充てる時間が増えたため、当初よりも色々な業界に興味を持つようになった。
興味ある企業のみならず5社程度エントリーをしていた / 不況でどこも採用人数を減らしていると感じ、急いで手当たり次第にエントリーをし始めました。コロナの影響でESの選考が遅れているのか、それともESを通過してなくて企業様から連絡がこないのかわからず、選考が進んでいなく、急いでエントリー企業を増やしている
いきたい企業の選考を受けていた / 自分の力が生きそうな企業を選ぶようになった
業務内容重視 / 資本を持っている企業重視(コロナによる経済停滞で転職が困難になると考えられるため)
海外勤務をしたいと思っていた / 今はあまり海外に行きたくない
リモートワークができる企業が良いと感じた
集団面接を実施する企業には積極的でなかった / 新型コロナを受けて、集団面接からオンライン面接に切り替えた企業には好感を持った
コロナ対策についてどのような対策を企業がとっているかを少し重視するようになった。
研究テーマに近い業務内容の企業 / エントリーが間に合いそうな企業
身につけられる技術をより重視するようになった。
テレワークを積極的に進んでいる企業の働く環境は良いと推測していた / テレワークの進み具合は業務内容に依ることを理解し、テレワークの進み具合と働く環境は必ずしも直接的な対応はしないことを理解した
自分の専門性ととの合致 / 不景気が予測されるため、事業の多角性にシフト
大手しか受けるつもりがなかった / 大手以外の企業への就職も検討した

※一部抜粋

◆まとめ

今回の調査では大学院生（修士・博士）が、急激に進む就職活動のオンライン化について、不安を感じつつも柔軟に対応していることが明らかになりました。日頃から研究に忙しく、地方在住の場合も多い大学院生にとって、就職活動のオンライン化は時間や費用の面でのハンデを克服する大きなチャンスとなっています。同時にこれは企業にとって、これまでリーチしづらかった優秀な人材にアプローチできる可能性が広がることを意味します。実際にアカリクで直近で実施したオンライン選考会でも、大学院生、企業ともに満足度が高いという結果がでており、この流れは21年卒だけのものだけでなく、Afterコロナにおいても当たり前となっていく可能性が高いと考えます。

このような状況の中で、両者にはオンラインでのコミュニケーションで互いの魅力をアピールし、理解することが求められます。現時点では企業側の対応にもまだまだ混乱がみられており、このあとスピーディーに適應できるかどうか、人材獲得の大きなポイントとなるでしょう。

地方在住の大学院生の方が就活に不安を感じていない背景には、従来からの就活関連の情報不足とそれに伴う認識のズレがあると考えられます。オンライン選考の一般化により、地方在住者はチャンスを得たとともに、都市部と同様な就活スケジュールへの切り替えが自然と求められ戸惑いや焦りも生まれるはずですが、そうした中で柔軟に対応する姿勢を示す採用企業は信頼できると認識されるでしょう。

オンラインへの対応が大学院生から評価されている一方で、環境や待遇に関する選社軸については新型コロナウイルス感染拡大前後で変化していない、との声も多いのも事実です。また、選社軸として重視する項目は修士と博士で傾向が共通しており、「新卒博士の民間就職」が一般化して当事者たちの間でも浸透しているものと考

えられます。企業はこれらを踏まえ、「修士であるから」「博士であるから」といった先入観に囚われず、それぞれの専門性を支える基礎能力も含めた評価を、オンライン/オフラインに関わらず正しく行うことが必須とされます。

最新の動向については、こちらをご確認ください。

[2020年先端IT人材不足の深刻化で博士・ポスドク人材需要が急拡大か！](https://acaric.co.jp/news/2019/12/2019-report/)

<https://acaric.co.jp/news/2019/12/2019-report/>

[高度人材からの好評価獲得には企業のオンライン採用導入が鍵！オンライン採用で地方の高度人材獲得のチャンスを掴め](https://acaric.co.jp/news/2020/04/2020-report/)

<https://acaric.co.jp/news/2020/04/2020-report/>

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社アカリク PR担当
TEL : 03-5464-2125 MAIL : pr@acaric.co.jp